

愛知医科大学病院を受診した患者さんへ

当科では、下記の臨床研究を実施しています。この研究は、愛知医科大学病院倫理委員会において、ヘルシンキ宣言の趣旨に添い、人を対象とする医学系研究に関する倫理指針、ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針等を遵守し、医の倫理に基づいて実施されることが審査され認められた研究です。

今回の研究は、対象となる患者さん一人ずつから直接同意を得て行う研究ではなく、研究内容の情報を公開することが求められている研究です。もし、この研究に関するお問い合わせなどありましたら、以下の「問い合わせ先」までご連絡ください。

記

研究課題名	小学生軟式野球選手に発生する野球肘（上腕骨小頭離断性骨軟骨炎）検診の身体的特徴に関する研究
研究機関名	愛知医科大学病院
研究機関の長	病院長 羽生田正行
担当科等	整形外科
研究責任者	整形外科 特任教授 岩堀裕介
研究の意義・目的	近年、投球による少年野球障害の代表的疾患の1つである上腕骨小頭離断性骨軟骨炎の早期発見に超音波を用いた野球肘検診が有用であるとの報告がされている。上腕骨小頭離断性骨軟骨炎は発見時期が治癒率に影響し、病期が進行すればするほど治癒率が低下する。野球選手の野球肘障害（上腕骨小頭離断性骨軟骨炎）の早期発見・予防のために野球肘検診を行います。早期発見により障害の重症化・長期化を防ぎ、予防対策を講じることにより障害なく野球活動を継続することができます。また、今回の結果を調査・分析して得られた知見を、整形外科・スポーツ医学の向上に役立てることを目的としています。
対象となる患者さん	当院及び共同研究機関において小学生で野球肘検診を受検した者のうち、本研究への参加に同意が得られた者。
研究の方法	2016年～2021年に野球選手を対象に行われた野球肘検診で得られた情報（超音波画像・問診・身体所見・上下肢可動域の測定データ）を用いて、上腕骨小頭離断性骨軟骨炎の発生率を検討し、上腕骨小頭離断性骨軟骨炎の早期発見や早期の治療介入により得られたデータをもとに、上腕骨小頭離断性骨軟骨炎の原因を解明し、そこから予防対策を考案し、現場にフィードバックして、早期発見、早期治療につなげます。
研究期間	倫理委員会承認日 ～ 2021年12月31日
個人情報の取り扱い	<p>利用する情報から、お名前、住所など個人を特定できる個人情報は削除して利用します。また、研究結果は学会や論文などで発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。</p> <p>診療情報などの本研究への利用を拒否される方、個人情報の開示を希望される方は下記問い合わせ先までお申し出ください。</p> <p>個人情報の開示を希望する場合の手続き方法、保有する個人情報の利用目的の開示を求められた場合の手続き方法及び、保有する個人情報の開示</p>

	に係わる手続き方法に関するは問い合わせ下記までご連絡ください。
その他	
問い合わせ先	愛知医科大学 医学部整形外科学講座 担当者：(職名) 特任教授 (氏名) 岩堀裕介 電話 0561-62-3311 (内線 22126)